

＜自治体×民間企業 本気の連携へ＞ スマコミ実現ソリューション構想 ワークショップ&視察会 in仙台 開催報告



会期：2014年3月12日 & 13日

場所：夢メッセみやぎ 会議棟

主催：日刊工業新聞社

日本能率協会コンサルティング

協力：宮城県大衡村

(一社) 仙台グリーン・コミュニティ

推進協議会

国際航業(株)

日刊工業新聞社ならびに日本能率協会コンサルティング(以下JMAC)は、2013年12月13日のキックオフセミナーを皮切りに“スマートコミュニティ実現支援プロジェクト”を開始しました。本プロジェクトの第二弾として、2014年3月12日及び13日に“自治体×民間企業 本気の連携へ「スマコミ実現ソリューション構想ワークショップ&先進取組地域視察会 in 仙台」”を開催致しました。本イベントは、これからスマートコミュニティ(=再生可能エネルギーを含めたエネルギーを効率的に活用する社会、以下スマコミ)の実現および当領域で事業化を検討したい参加者がスマコミを具体的に推進するために必要な視点や考え方をワークショップにより学び、先進的な取組みを実際に見て推進者の苦労や課題に触れることで今後の自地域や自社の活動検討に活かすことを目的としております。

1日目

構想ワークショップ “地域を特定して課題を想定しよう”

1日目の構想ワークショップは、2014年3月12日の午後、日刊工業新聞社主催展示会;第二回東北/防災・減災ソリューションフェア(会期:2014年3月12日、13日)の会場である夢メッセみやぎにて開催されました。弊社JMACチーフ・コンサルタント野田真吾、チーフ・プランナー江原央樹のコーディネートにより二種類のワークショップを行いました。ワークショップ①では仙台市宮城野区を題材に特定地域の課題を抽出し、課題解決モデルを検討しました。ワークショップ②では、課題解決の方法についてアイデア出しを行い、解決方法と民間企業の自社商品(製品・サービス)との関連付けや提供価値を検討しました。土地勘のない方がほとんどでしたが、弊社が準備した宮城野区に関する情報や資料を活用し具体的な地域の想定課題が多数あげられていました。



2日目

視察会① “住宅地で始まるエネルギーマネジメント事業”

2日目の視察会では、仙台市内および近隣の大衡村の二カ所を訪問し、スマコミ推進者のお話をお聞きしました。

午前は、仙台市中心部から北東へ約7kmにある仙台市エコモデルタウンプロジェクト推進事業として行われている田子西地区の『グリーン・コミュニティ田子西』を視察しました。地区内のエネルギーマネジメントを担う(一社)仙台グリーン・コミュニティ推進協議会(設立;2012年9月設立、正会員;国際航業(株)、(株)NTTファシリティーズ、賛助会員;NTT東日本、敬称略)の皆さまよりグリーン・コミュニティ田子西のまちづくりコンセプトやエネルギーマネジメント事業への取組み等についてご説明いただきました。

グリーン・コミュニティ田子西では、現在二つの街区(スマートヴィレッジ街区ならびに復興公営住宅街区)の整備が進んでおり、同社団法人により、スマートヴィレッジ街区では、各新築住居に太陽光発電システムや蓄電池といった創・省・蓄エネ設備のリース



集合住宅4棟からなる復興公営住宅街区;建設が急ピッチで進む

事業が開始され、また、4棟の集合住宅の建築が進む復興公営住宅街区では、2014年4月より実際に入居が始まり、同社団法人が電気を高圧一括受電し住居者に販売する予定とのこと。これらのお話を受けて、参加者から具体的な事業スキームやこれまでの土地区画整理や本事業開始への経緯・苦労等について質問がされ活発な情報交換がなされました。



スマートヴィレッジ街区に設けられたインフォメーションセンター;地域のコミュニティ活動の場として活用されている



午後は、仙台市中心部から北へ25kmに位置する大衡村並びに同村内の「第二仙台北部中核工業団地」において進められているスマートコミュニティ「F-グリッド構想」の一角をなす植物工場（パブリカ工場）を訪問しました。大衡村役場のご協力の下、トヨタ自動車(株)と進める「F-グリッド構想」実現までの経緯ならびに大衡村スマートコミュニティ化実行計画、F(F=Factoryの意味)グリッド構想の中身について説明をお聞きしました。



大衡村役場にて

宮城県黒川郡大衡村では、第五次大衡村総合計画並びに大衡村都市計画マスタープランに掲げるまちづくり構想の実現を環境・エネルギーやICT活用の観点から推進するために、地域の課題と村民のニーズについての住民アンケートを実施し、大衡村スマートコミュニティ化実行計画を今年2月に策定しました。今後、以下4つの目的を兼ね備えた「新しい技術と従来の環境が調和した村民と地域がつながるまちづくり」をコンセプトとして推進していくとのことです。

生活…エネルギーの見える化、利便性と快適性の向上
 防災…防災拠点の整備、地域防災力の向上
 産業…村の産業と連携した地域活性
 交通…クリーンな交通手段の活用

また、F-グリッド構想は、現在事業運営段階にあり、平常時はトヨタ自動車東日本(株)工場内のコージェネ※施設(発電能力:7800kW)で作られる電気と熱を自社工場内だけではなく、植物工場を含めた工業団地内の企業への電力/熱供給ならびにエネルギーマネジメント(見える化・省エネ等)を2013年4月より実施しており、災害時においては、工業団地内の企業のみならずF-グリッドで発電した電力を電力会社が購入し、既設の電力系統を通じて防災拠点となる大衡村役場等への電力を供給する計画(2015年度予定)があるそうです。ご説明の後、自動車工場に隣接し実際に高温水により熱供給を受けパブリカを栽培する植物工場を見学しました。オランダの技術を取り入れた最新鋭の工場は参加者の皆様にとっても非常に新鮮だったようです。



万葉・おおひら館
 パブリカ他大衡村並びに宮城県内の特産品を購入することができる。自動車が展示され実際に販売されている点が非常に印象的であった

※コージェネ…コージェネレーションシステムの略称で熱源より電力と熱を生産し供給するシステムのこと。

総括ならびに今後の活動について

今回、二日間に及ぶ企画でしたが、年度末のご多用な時期にも関わらずスマートコミュニティ実現に関心が高い12名(宮城県外の方9名)の方にご参加いただきました。参加者の方からは、以下のような声がありました。

- ・スマートコミュニティ実現に取り組む上での基本的な視座や視点を学ぶことができた。
- ・具体的かつ先進的にスマートコミュニティに取り組む現場を見て推進者の方とお話することができ、自身で検討するにあたり非常に参考になった。
- ・スマートコミュニティ実現は自治体だけでも民間企業だけでも単独ではできないと実感した。

これら皆さまからの声を受けまして、今後日刊工業新聞社ならびに弊社日本能率協会コンサルティングは、各地域でのスマートコミュニティ実現に向けた具体的な支援を今後とも推進してまいります。本気でスマートコミュニティ実現を目指す自治体並びに事業者の皆さまはぜひ、ご活用いただけましたら幸いです。

詳細はこちらから→ <http://www.jmac.co.jp/special/energy/event.html>